



鹿児島市社会事業協会の保育園

鹿児島市社会事業協会は、昭和3年に創立し昭和27年に社会福祉法人としての認可を受けた歴史ある法人です。当法人の保育園は市内に14ヶ園あり、経験豊富な職員が、子どもの個性を大切にしながら、心身ともに健全な成長が図られるように努めています。また、3障害児通所支援、相談支援センター、2親子つどいの広場、3児童センターと児童福祉を中心とした施設を運営しており、関連施設との連携を図りながら、子ども一人ひとりの発達を支援しています。

協会保育園の特徴

- 家庭的で温かみのある保育
- 一人ひとりの個性や主体性を大切にする保育
- 法人内児童発達支援施設等との連携による、発達段階に応じた保育
- 0歳児からの育ちに合わせた安全でおいしい給食

保育の理念

*入園児童の心身ともに健やかな育成のため、専門性を高め安全な保育環境の整備及び運営の向上に努めます。

*各種の保育事業に取り組み、入園児童、保護者及び地域への社会的責任を果たします

*よりよい「家庭環境」を支援するために、利用される方に対して最善を尽くすことを誇りとします

保育方針

家庭的な雰囲気の中、豊かな愛情を持って一人ひとりの気持ちを受けとめ、子どもの主体性を尊重し、生きる力の基礎となる資質能力を身につける。

保育目標

- 「明るく元気な子ども」 「友達となかよく遊ぶ子ども」
- 「思いやりのある優しい子ども」 「自分で考え創意工夫する子ども」
- 「ねばり強く取り組む子ども」 「感じたことや考えたことを表現できる子ども」



保育園は 養護と教育（5領域）を一体的に提供しています

保育

（生きる力を育てる）

養護 命を守り心を育てる

生命の保持

- 子どもが気持ちよく、健やかに生活していくための環境づくり、生活の場づくりに努めることで子どもの健康や安全を守ります。

情緒の安定

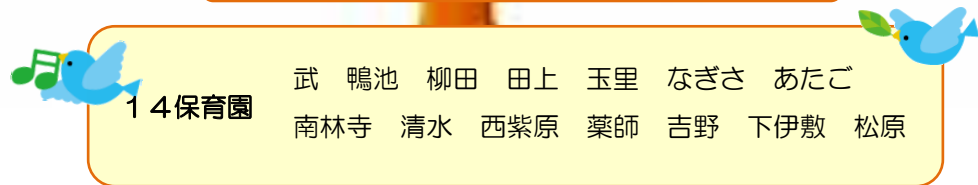
- 子どもが心から安心できるような関わりをしていくことで、心の基礎を培います。

教育 5つの領域で子どもの発達を援助

健康・人間関係・環境・言葉・表現

- 一人ひとりの個性を認め、それぞれのペースで遊ぶことを大切にします。
- 体験の中で自ら気づき、学べるように見守ります。

社会福祉法人 鹿児島市社会事業協会



14保育園

武 鴨池 柳田 田上 玉里 なぎさ あたご
南林寺 清水 西紫原 薬師 吉野 下伊敷 松原

一人ひとりの個性を大切にしたい家庭的で楽しい保育園

保育

生きる力を育てる

保育は「養護」と「教育」が一体となっています。

養護 命を守り心を育てます。

- 生命の保持
- 情緒の安定

教育 5つの領域で子どもの発達を援助します。

- 健康・人間関係・環境・言葉・表現

健康

健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養います。

バランスのとれた食事や適度な運動により、生活のリズムや生活習慣を身につけることで、健康な心と体をつくります。

人間関係

他の人々と親しみ、支えあって生活するために、自立心を育て、人と関わる力を養います。

さまざまな年齢の友達との交流によって社会性や思いやりの気持ちを育てます。

環境

周囲の様々な環境に好奇心や探究心を持って関わり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養います。

子どもが主体的に、身近な自然や人との関わりに興味を持つための環境を整えています。

言葉

経験したことや考えたことを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞くこととする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養います。

友達などとの関わりの中で、話す力、聞く力を育てます。

表現

感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにします。

お絵かきやリズム遊び、ごっこあそびなど、感じたことや考えたことを自由に表現できる活動を行います。

食育

保育所の特性を生かした食育

食を通して健康な体と豊かな心を育てます。いろいろな人と食べる喜びや楽しさを味わい、よりよい食習慣を身に付けながら、「食を営む力」を培います。

園庭での野菜作りや、親子クッキングなどを通して、食へ親しみ、食べ物を大切にすることを育てています。また、なるべく地元産の食材を使うとともに、食べ物健康な体づくりに大切であることをわかりやすく伝えます。

給食を提供するにあたっては・・・

- 各年齢に必要な栄養量を考え、季節や鹿児島の特徴を生かしています。
- 離乳食は、一人ひとりの月齢や家庭での状況に合わせて作ります。
- アレルギーのあるお子様には、個別の除去食などきめ細かな給食を提供しています。

幼児教育

幼児期の終わりまでに育って欲しい姿

保育園の保育は小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながっていきます。「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」は日々の保育の積み重ねや、子どもの自発的な遊びを通して一人ひとりのペースであらわれてくるものです。これらのことを視野に入れながら、小学校への継続した支援を大切にしています。

○幼児期の終わりまでに育って欲しい姿

- 健康な心と体
- 思考力の芽生え
- 自立心
- 自然との関わり・生命尊重
- 協同性
- 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
- 道徳性・規範意識の芽生え
- 言葉による伝え合い
- 社会生活との関わり
- 豊かな感性と表現

子育て支援

保護者との相互理解と個別支援

- 園では、子どもの日々の様子などの伝達をします。
- 子どもの関わり方・発達に関する相談をいつでもできる体制を整えています。

地域に開かれた子育て支援

地域の子育て中の親子に対して、子育てに関する不安や負担の軽減のため相談・援助の実施や親子の交流を図るための「ふれあい広場」や地域貢献イベントを実施しています。